

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

池子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等 (○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等)

【 国語 】

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

○言葉の特徴や使い方に関する事項については、県及び全国の平均正答率と比較してもほぼ同じ割合の平均正答率である。

《情報の扱い方に関する事項》

●情報の扱い方に関する事項については、県及び国の平均正答率と比較して、約5%低い。

《話すこと・聞くこと》

○目的や意図に応じて日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分析したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかを見る問題では正答率が60.4%と県平均、国平均から7%ほど高い。

《書くこと》

○書くことについては、県及び国の平均正答率とほぼ同じ平均正答率である。

《読むこと》

○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握するかできるかどうかを見る問題では、県平均から14.9%、国平均から13.8%低い

《児童質問紙 国語に関する質問》

○「国語の勉強は得意ですか」の質問に対し、当てはまる、どちらかといえば、当てはまると回答した児童の割合が県の平均が61.5%、国の平均が61.4%に対し、本校は70.2%と県及び国平均より高い。一方で「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対し、当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答した児童の割合は、85.1%で、県の平均90.7%、国の平均90.4%より5%ほど低い。

【 算数 】

《数と計算》

小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかを見る問題では国平均より5%高い

《図形》

○平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかを見る課題では、県平均14%、国平均より約14%低い

《変化と関係》

○「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを洗わざことができるかどうかを見る問題は県平均から11%、国平均から16%高い

《データの活用》

○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見出し、知りたい数量の大きさの求め方を式やことばを用いて傷つできるかどうかを見る問題では、県平均、国平均から10%低い

《児童質問紙 算数に関する質問》

「算数の授業の内容はよくわかりますか」の質問に対し、当てはまると回答した児童が29.8%で、県平均の43.2%、国平均の41.7%と比較すると、大幅に下回っているため、指導法の改善等が課題である。また、「算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の質問に対し、当てはまると回答した本校の児童は51.1%で、県平均の45.4%、国平均の45.8%と比較し訳6%を上回っている。

【 理科 】

《「エネルギー」を柱とする領域》

●乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかを見る問題については、県平均から17.4%、国平均から17.6%低い

《「粒子」を柱とする領域》

●粒子を柱とする領域については、県平均、国平均と比較すると若干低めである。

《「生命」を柱とする領域》

○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技術が身に付いているかどうかを見る問題では、県平均から13%。国平均から15%高い。

《「地球」を柱とする領域》

●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかを見る問題では県平均から11%、国平均から15%低い

《児童質問紙 算数に関する質問》

「理科の勉強は得意ですか」の質問に対して、当てはまると回答した本校の児童は48.9%で、県平均の38.4%、国平均の40.9%より上回っている。一方で、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に当てはまると回答した本校の児童の割合は、34.0%で、県の43.8%、国の44.3%より下回っている

◎児童質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等

- 「自分には良いところがある」の質問に対し当てはまる、どちらかと当てはまると回答した児童の割合が、国及び県平均よりも約6%上回っている。
- 「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」の質問に対し当てはまる、と回答した児童の割合が高い。
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいことと思う児童の割合が高い。
- 「分からぬことやくわしく知りたいことがあったときに、自分の学び方を考え、工夫をすることができる」と回答した児童の割合が高い。
- 困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答した児童の割合が低い。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

学校における教育活動を通して子どもたちに身につけさせたい力は何か、学んだことが将来にどのように生かされるか、子どもたちにとっての学びとは何かを教職員全体で再確認をし、日々の授業改善につなげていくことが必要であると考えています。この先子どもたちが生きていく社会では、多様な考え方、多様な価値観に触れ、こうした考え方や価値観と折り合いをつけたり、自分の考え方を主張したり、あるいは対話を通じてお互いが納得できる考え方を導き出したり、そのような力が必要になるのだと思います。本校では、子どもたちの学びについての研究を5年ほど継続して行っています。子どもたちにとって、その時間何をどのように学んだか、指導法や教材だけではなく、教室環境、人間関係も重要なファクターとなります。心理的安全が確保された教室環境の中で、自分の考え方や意見を伝えることができ、友だちの意見や考えに触れることで、さらに自分の考え方を深めることができる。そのような学びの積み重ねの実現を目指し、教職員が校内研究を通じて充実させていきたいと考えます。